

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名		夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
				全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
工学部	機械工学科		夜・通信	18		4	22	13		
	ナノサイエンス学科		夜・通信			4	22	13		
	建築学科		夜・通信			3	21	13		
	宇宙航空システム工学科	宇宙航空システム専攻	夜・通信			4	22	13		
		航空整備学専攻	夜・通信			4	22	13		
		航空操縦学専攻	夜・通信			3	21	13		
芸術学部	美術学科		夜・通信			12	30	13		
	デザイン学科		夜・通信			4	22	13		
情報学部	情報学科		夜・通信			4	22	13		
生物生命学部	生物生命学科		夜・通信	18			6	24	13	
	応用微生物工学科		夜・通信	18			2	20	13	
	応用生命科学科		夜・通信				2	20	13	
薬学部	薬学科		夜・通信			9	27	19		
<p>(備考)</p> <p>生物生命学部生物生命学科は令和4年度より改組の学科であり、1年生と2年生のみが在籍中である。本申請における科目の単位数は1年生と2年生に開講の科目のみで算出している。</p>										

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ : https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (実務経験のある教員等による授業科目一覧)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ：https://www.sojo-u.ac.jp/about/outline/officers_list/（役員・役職員）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 社長	2020.4.1 ~ 2024.3.31	コンプライアンス
非常勤	株式会社 社長	2022.4.1 ~ 2026.3.31	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、教務委員会において審議し、①授業の概要、②到達目標の明確化、③授業の計画、④授業の方法、⑤評価基準、⑥教材の内容を盛り込むことがルール化されている。</p> <p>毎年度のシラバスは、以下の過程を経て作成されている。</p> <p>10月下旬～2月中旬：次年度授業担当計画書の作成を各学科長あてに依頼(開講学年開講期間・成績担当者・教室設備等の記入を依頼)</p> <p>11月下旬：授業担当計画書を基に各科目のシラバス作成を教員あてに依頼</p> <p>1月中旬：シラバス入力期間終了後、各学科にてシラバス確認</p> <p>2月下旬：シラバスチェック終了後、各担当教員へのフィードバック</p> <p>3月中旬：修正期間</p> <p>4月初旬：シラバス公表(運用開始)</p> <p>なお、シラバスをホームページで4月初旬に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://portal.sojo-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do (シラバス検索)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業については授業回数の確保を厳格化し、各シラバスに記載されている評価方法および評価明細基準に基づき複数回の小テストや課題提出等を設け、多面的な評価により成績を確定している。成績は、成績公開と同時に学生からの異議申し立て期間を経て、厳格かつ適正に単位を授与している。</p> <p>また、学則および学位規則、履修規程をホームページで公表している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、各学生の成績が所属する学科等の中でどの位置にあるかを把握するためにG P Aを導入している。</p> <p>G P Aの算出方法は、次のとおりとする。</p> $G P A \text{ 値} = \frac{\text{(評価毎の係数} \times \text{各評価の単位数) の総和}}{\text{履修登録単位数の総和 (卒業要件以外の科目及び認定科目の単位は除く)}}$ <p>(係数 秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0)</p> <p>G P A制度の目的および計算方法については、ホームページで公表している。また「学生便覧」にG P Aの制度について詳細に記載し、学生へ周知している。さらに、学科ごとの成績分布をグラフ化し、学科長へ提供している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/ (G P A制度について)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では教育理念に基づき、豊かな人間性と「いのちとくらし」に関する高度な専門性を有する人材を育成するとともに、各専門分野における革新と貢献を目指し、各学科のディプロマポリシーを策定している。また、その内容はホームページ等で公表している。</p> <p>各学科の教育課程に沿った授業計画(シラバス)の中に、ディプロマポリシーとの関連や到達度目標を記載している。これらの能力を身に付けた者に単位を付与し、学則および履修規程に定める各学科の卒業要件に基づき認定している。</p> <p>卒業判定の手順は、以下のとおりである。</p> <p>2月中旬：各学科から教務課に卒業に関係するすべての成績が報告される。学生は自身の成績を確認し、同時に教務課において成績に関する異議申し立て期間を設定する。</p> <p>2月下旬：異議申し立て期間終了後、各学科において最終のチェックを実施する。</p> <p>3月初旬：卒業認定教授会において卒業を認定する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>ホームページ： https://www.sojo-u.ac.jp/about/outline/policy/ (3つのポリシー)</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/06taishaku04.pdf https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/11jigyoutaisyaku04.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/03shikin04.pdf https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/10jigyousonneki04.pdf
財産目録	https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/07zaisan04.pdf
事業報告書	https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01jigyohoukoku04.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/08kansa04.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/evaluation/ (大学評価)
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/evaluation/ (大学評価)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01-03_gakubugakkamokuteki2022.pdf ）
（概要） 基盤工学と汎用科学技術により、高い倫理観に基づく豊かな人間性と本物の工学的素養をバランスよく身につけて、多様化した現代社会の高度な要請に工学視点から対応できる実践的問題解決型の人材を養成する。特に、国際的かつ地域社会に貢献できる優れた工学人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/policy/ ）
（概要） 本学部は、本学の教育理念に沿った各学科カリキュラムを実践し、厳格な成績評価により卒業要件を満足した次の能力を有するものに学士（工学）の学位を授与します。 <ul style="list-style-type: none">・ 社会の持続的発展に貢献できる技術者・研究者として、豊かな人間性と高い倫理観を身につけたもの。・ 優れた応用力を多面的に発揮できる技術者・研究者になるため、幅広い視野と社会人基礎力、ならびに工学の基本的知識を身につけたもの。・ 国内外の様々な人類社会問題を工学的に解明するため、課題発見・実践的問題解決能力を身につけたもの。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/policy/ ）
（概要） 本学部は、幅広く深い教養と工学の専門知識を身につけて実社会に活かせるように、次の実施方針でカリキュラムを編成します。 <ul style="list-style-type: none">・ 技術者・研究者として相応しい人間性と倫理観を養うため、動機付けを含む初年次導入教育、教養および倫理教育、キャリア教育を体系的に継続して行います。・ 高度な工学分野の課題に挑戦できる汎用能力を涵養するため、各専門科目とともに専門基礎科目を充実させ、基礎から応用へと効果的につながる教育を展開します。・ 諸問題を見出して解決できる実践力を養うため、専門領域ごとにアクティブ・ラーニング、演習、実習、実験、卒業研究等の体験型学習を通じた自得の教育を推進します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/engineering/policy/ ）
（概要） 本学部は、基盤工学と汎用科学技術により「いのちとくらし」を支える人材養成を目指し、次のような人を受け入れます。 <ul style="list-style-type: none">・ 高い倫理観に基づく豊かな人間性と本物の工学的素養がバランスされた技術者・研究者を育成するため、道徳心と協調性をもってコミュニケーションがとれる人。・ 多様化した現代社会の高度な要請に工学視点から対応できる実践的問題解決型の人材を育成するため、幅広い専門知識・技能の修得に必要な基礎学力と創造力をもつ人。・ 本学オリジナルの教育刷新プログラム（SEIP）を実践し、国際的かつ地域社会に貢献できる優れた工学人材を育成するため、新しい教養および専門教育に粘り強く取り組むことができる向学意欲のある人。

学部等名 芸術学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01-03_gakubugakkamokuteki2022.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>高い倫理観を有し、現代社会における芸術の役割を認識し、広範な活動領域で持続的な創作活動を行うことのできる人材、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことができる人材、文化創造へ積極的貢献を行うための創造性、独創性豊かな優れた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部は、本学の教育理念に沿ったカリキュラムを実践し、厳格な成績評価を通過した次の能力を有するものに学士（芸術）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術やデザインの研究活動を通して培った豊かな感性と社会人として相応しい倫理観を身に付けたもの。 ・ 美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付けたもの。 ・ 社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部は、本学の教育理念に沿って、次の実施方針でカリキュラムを編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間性と倫理観を養うために、美術・デザインにおける多様な基本的知識と教養を身に付ける教育を実践します。 ・ 美術・デザインにおける高度な専門知識と技術を身に付けるために、専門領域に関する深い理解と表現力を養う科目を充実させます。 ・ 課題を発見し、それを解決する能力を養うために、美術・デザイン領域の専門的な理論および実体験型実習の教育を推進します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部は、本学の教育理念を实践するため、次のような人を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い倫理観を持ち、幅広く美術・デザイン領域において積極的に社会貢献をする人を養成します。そのため、思いやりと協調性を持ってコミュニケーションがとれる人。 ・ 美術・デザイン分野の多様化に対応する作家、研究者、デザイナーを養成します。そのため、課題発見・問題解決能力を修得する上で必要となる基礎的な描写力や学力、ならびに修得意欲を持つ人。 ・ 新しい専門領域に対して挑戦し続ける人を養成します。そのため、人間や自然、社会に対して真摯に向かい合う姿勢を持つ人。

学部等名 情報学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01-03_gakubugakkamokuteki2022.pdf</p>
<p>（概要） 21世紀に益々増大すると予測される新しいIT産業技術を支える新しいタイプの人材を養成する。高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を持ち、工業社会からIT社会への転換に対応できる、地方にあっては、デジタルデバイドにも対処できる、しなやかな知識を有する人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/information/policy/</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念に沿ったカリキュラムを実践し、厳格な成績評価を通過した次の能力を有するものに学士（工学）の学位を授与します。</p> <p>【知識・理解】情報・電気・電子・通信および地域創生分野における専門知識と技術を有し、国際社会あるいは地域社会の様々な課題を発見し、解決できる能力を身につけたもの。 【汎用的技能】情報・電気・電子・通信および地方創生分野において、分析・判断力やコミュニケーション能力、デザイン能力などの汎用的な能力を身につけたもの。 【態度・志向性】技術者としての高い倫理観と自己管理能力を持ち、チームワーク力と実践力を身につけたもの。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/information/policy/</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念に沿って、次の実施方針でカリキュラムを編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報・電気・電子・通信および地域創生分野に関する高度な専門技術に対応できる能力を養成するため、上記分野に応じたコースを定め、専門共通、コース専門の二段階でカリキュラムを編成します。 ・ 情報・電気・電子・通信および地域創生分野に関する課題発見・問題解決能力を養うため、アクティブ・ラーニング、実験、実習、卒業研究等の実際の体験を通じた教育を推進します。 ・ 高い人間性と倫理観を持つ技術者を育成するために、教養および倫理教育を導入します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/information/policy/</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念を实践するため、次のような人を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の要請に対応しうる人材として、高い倫理観と豊かな人間力を持った技術者を育成します。そのため、情報収集・分析能力、コミュニケーション能力および協調性を備え、自分で考え自立して行動できる人。 ・ 情報・電気・電子・通信および地域創生分野における課題解決能力を有した「実践力・創造力ある技術者」を育成します。そのため、上記分野に関する専門技術の修得に熱意を持ち、修得に必要な基礎学力を持つ人。 ・ 「いのちとくらし」の観点から、国際社会あるいは地域社会に貢献できる人材育成を目指しています。そのため、新しい専門領域に対しても向学意欲があり、困難を乗り越える気概のある人。

<p>学部等名 生物生命学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01-03_gakubugakkamokuteki2022.pdf）</p> <p>（概要） 社会を支える科学技術の分野において、バイオテクノロジー、ライフサイエンスの役割は大きい。生物科学・生命科学の総合的な教育研究を通して、バイオテクノロジー・ライフサイエンスの基礎知識およびそれをニーズに合わせて応用する能力を持ち、高い倫理観を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/biotechnology/policy/）</p> <p>（概要） 本学部は、本学の教育理念に沿ったカリキュラムを履修し、厳格な成績評価により卒業要件を満たした、次の能力を有するものに学士（工学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いのちとくらし」の諸分野で人類社会に貢献できる豊かな人間性と倫理性、さらに国際的な視点を身につけたもの。 ・ バイオテクノロジー・生命科学の専門分野で技術者・専門家としての専門知識・技能を身につけ、それらを総合的に活用できるもの。 ・ 論理的思考力・豊かな発想力を身につけ、専門分野の課題を解決でき、さらに独自に新たな課題を見いだし、それに取り組み、柔軟に解決できる能力を持ったもの。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/biotechnology/policy/）</p> <p>（概要） 本学部は、人々の「いのちとくらし」を支えるバイオテクノロジー・生命科学の分野で活躍できるスペシャリストを養成するため、次のようにカリキュラムを展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野の技術者・研究者として必要な人間性と倫理観、さらに国際的に活躍できる言語力を涵養するため、教養、倫理教育、キャリア教育、英語教育を体系的に行います。 ・ 高度な専門分野に取り組むため、専門基礎科目を充実させ系統的な教育を行います。同時に実践的な課題解決能力をもった人材を育成するため、実験実習を低学年から行い、効果的な教育を行います。 ・ 課題解決力ならびに新たな課題を見い出す能力を持った人を育成するため、高学年で卒業研究を行い、「解答のない課題」に取り組む体験型学習、能動的学習の機会を充実させます。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/biotechnology/policy/）</p> <p>（概要） 本学部は、「いのちとくらし」に貢献できる人材の育成を目指して、次のような人を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い倫理観と豊かな人間性を持ったバイオテクノロジー・生命科学分野の技術者・研究者を育成するため、主体性と協調性、柔軟な思考力と人間性を備えた人。 ・ バイオテクノロジー・生命科学の専門領域で問題解決力を持つ、技術者・研究者を育成するため、その素地となる専門知識・技能の修得に必要な基礎学力を持つ人。 ・ 本学オリジナルな教育刷新プログラム(S E I P)を実践し、バイオテクノロジーや生命科学の分野に積極的に取り組むことのできる向学心ある人。

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/01-03_gakubugakkamokuteki2022.pdf）</p>
<p>（概要） 薬学の基礎学力と倫理観をしっかりと身につけて、問題解決能力や国際化・情報化への対応能力を育み、医療、保健、創薬など、いずれの方向に進んでも患者志向の薬の専門家として貢献できる高い資質と人間性豊かな薬剤師を養成する。特に医療現場で活躍できる実践能力の高い薬剤師を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/pharmaceutical/policy/）</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念および学部の教育研究上の目的に沿ったカリキュラムを実践し、厳格な成績評価により卒業要件を満たした次の能力を有するものに学士（薬学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけたもの。 ・ 薬剤師としての高度な知識を修得したもの。 ・ 地域の人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるもの。 ・ 科学的思考にもとづく問題発見・解決能力を有するもの。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/pharmaceutical/policy/）</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念および学部の教育研究上の目的に沿って、次の実施方針でカリキュラムを編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間性・倫理観を養うために、教養・倫理教育を継続的に実施します。 ・ 高度な医療と健康増進、公衆衛生の向上に対応できる能力を養うために、医療系科目を充実させます。 ・ 問題発見・解決能力を養うために、PBL(Problem Based Learning)学習、実習および卒業研究を充実させます。 ・ 学習成果基盤型教育(Outcome Based Education)に基づいて、効果的な学習ができるように科目を編成します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/pharmaceutical/policy/）</p>
<p>（概要） 本学部は、本学の教育理念および学部の教育研究上の目的を实践するため、次のような人を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の高度化に対応できる臨床能力に優れた薬剤師を養成します。そのため、専門知識とそれを基盤とした問題発見・解決能力を修得する上で必要な、基礎学力と論理的思考を有する人。 ・ 高い倫理観をもち、患者の立場に立った医療を提供できる薬剤師を養成します。そのため、思いやりと協調性をもってコミュニケーションがとれる人。 ・ 社会に貢献できる薬の専門家を養成します。そのため、強い意志をもち、科学・医療の新しい分野にも積極的に挑戦できる、意欲ある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ https://www.sojo-u.ac.jp/about/docs/15641656f15614edbcc4a0ef75eac02f0d3d1c06.pdf (組織図)
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
工学部	—	45人	10人	20人	11人	0人	86人
芸術学部	—	7人	6人	0人	3人	0人	16人
情報学部	—	11人	4人	0人	5人	0人	20人
生物生命学部	—	18人	9人	0人	2人	0人	29人
薬学部	—	19人	12人	6人	4人	0人	41人
教養部 (一般教養)	—	13人	11人	20人	6人	0人	50人
附置研究所	—	0人	0人	1人	0人	0人	1人
その他	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数 (兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		118人				118人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ http://rsrch.ofc.sojo-u.ac.jp/sjuhp/KgApp (研究業績データベース)					
c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)							
<p>本学では、教務委員会の下部組織としてF D委員会を設置し、教員の授業内容・授業方法の改善及び向上を目的に全学的に取り組んでいる。</p> <p>授業アンケートについては、F D委員会を中心に内容の見直しを行い、半期ごとに実施しており、授業アンケートの学生からの評価や意見を集約させ、各担当教員へフィードバックしている。評価の高かった教員に対しては「ベストティーチング賞」を授与、表彰を行い、その授業内容や教授方法について「崇城大学紀要」に掲載、公表し、他の教員の授業方法等の改善に役立っている。評価の低かった教員に対しては「授業改善報告書」の提出を義務付けている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	270人	321人	118.9%	1,080人	1,175人	108.8%	－人	－人
芸術学部	70人	90人	128.6%	280人	316人	112.9%	－人	－人
情報学部	130人	173人	133.1%	520人	636人	122.3%	－人	－人
生物生命学部	150人	163人	108.7%	600人	632人	105.3%	－人	－人
薬学部	120人	124人	103.3%	720人	818人	113.6%	－人	－人
合計	740人	871人	117.7%	3,200人	3,577人	111.8%	－人	－人
(備考) 編入学定員について設定なし(欠員のある場合に限り、許可することがある)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	315人 (100%)	39人 (12.4%)	244人 (77.5%)	32人 (10.2%)
芸術学部	63人 (100%)	7人 (11.1%)	40人 (63.5%)	16人 (25.4%)
情報学部	144人 (100%)	11人 (7.6%)	115人 (79.9%)	18人 (12.5%)
生物生命学部	180人 (100%)	30人 (16.7%)	129人 (71.7%)	21人 (11.7%)
薬学部	126人 (100%)	2人 (1.6%)	93人 (73.8%)	31人 (24.6%)
合計	828人 (100%)	89人 (10.7%)	621人 (75%)	118人 (14.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【主な就職先】				
工 学 部 : JASM、くまさんメディクス、ジェットスター・ジャパン、大和ハウス工業、オジックテクノロジーズ、スカイマーク、IHI、九州旅客鉄道、積水ハウス、名村造船所				
芸術学部 : エイジェック、イケヒコ・コーポレーション、デジタルワークスエンタテインメント、鬼丸雪山窯元、カラー、クリーチャーズ、サイバーレコード、島原ブランディングデザイン事務所、福岡市民ホールサービス、ムーンスター				
情報学部 : RKKCS、KIS、SYSKEN、再春館システム、リコージャパン、SCSK ニアショアシステムズ、九電工、日本コムシス、日本電子材料、富士ソフト				
生物生命学部 : 富田薬品、カネリョウ海藻、熊本製粉、山崎製パン、KM バイオロジクス、再春館製薬所、一番食品、オムロン阿蘇、九星飲料工業、新日本科学				
薬 学 部 : アインホールディングス、熊本大学病院、総合メディカル、済生会熊本病院、熊本赤十字病院、桜十字病院、ファーマダイワ、九州大学病院、サンドラッグ、日本調剤				
その他、国土交通省、自衛隊、警察、県庁、市役所、教員等				
【主な進学先】				
崇城大学大学院、岡山大学大学院、鹿児島大学大学院、北九州市立大学大学院、九州大学大学院、熊本大学大学院、順天堂大学大学院、琉球大学				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

シラバスの作成にあたっては、教務委員会において審議し、①授業の概要、②到達目標の明確化、③授業の計画、④授業の方法、⑤評価基準、⑥教材の内容を盛り込むことがルール化されている。

毎年度の授業計画（シラバス）は、以下の過程を経て作成されている。

10月下旬～2月中旬：次年度授業担当計画表の作成を各学科長あてに依頼（開講学年・開講期間・成績担当者・教室設備等の記入を依頼）

11月下旬：授業担当計画表を基に各科目のシラバス作成を教員あてに依頼

1月中旬：シラバス入力期間終了後、各学科にてシラバス確認

2月下旬：シラバスチェック終了後、各担当教員へのフィードバック

3月中旬：修正期間

4月初旬：シラバス公表（運用開始）

なお、シラバスをホームページで4月初旬に公表している。年間の授業計画については、カリキュラムフローを教務委員会で策定し、ホームページで公開している。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：ホームページ
https://www.sojo-u.ac.jp/access/campus/ （メインキャンパスマップ）
https://www.sojo-u.ac.jp/access/airportcampus/ （空港キャンパスマップ）
https://www.sojo-u.ac.jp/silc/ （SILC）
http://www.lib.sojo-u.ac.jp/ （図書館）
https://www.sojo-u.ac.jp/sumic/ （SUMIC）
https://www.sojo-u.ac.jp/news/2018/180928_002945.html （SoLA）
https://www.cis.sojo-u.ac.jp/index.php/iot-ai-center.html （IoT・AIセンター）
https://www.sojo-u.ac.jp/faculty/arts/sojo_gallery/ （SOJO GALLERY）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）	
工学部	機械工学科	1,040,000円	220,000円	100,000円		
	ナノサイエンス学科					
	建築学科					
	宇宙航空システム工学科			宇宙航空システム専攻		
				航空整備学専攻	1～2年次 100,000円 3～4年次 476,000円	
	航空操縦学専攻	1年次 1,600,000円 2年次 5,500,000円 3年次 7,460,000円 4年次 2,320,000円	※ 航空機燃料代 4年次生 840,000円を徴収			
芸術学部	美術学科			210,000円		
	デザイン学科					
情報学部	情報学科			100,000円		
生物生命学部	生物生命学科			210,000円		
	応用微生物工学科					
	応用生命科学科					
薬学部	薬学科	1年次 1,550,000円 2～6年次 1,880,000円	400,000円	—円	※ 5年次 病院・薬局等への 実務実習費を徴収。 (R4年度実績： 約31万円)	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生の修学に係る支援に関する取組として、以下の支援を学生の修学に係る支援の中心として取り組んでいる。

- SOJOポートフォリオ
学生に「気づき→努力→自信→意欲」のPDCAサイクルを回す習慣を身につけさせ、学修意欲の促進を図ることを目的としてポートフォリオを導入している。学生・教員・職員各々が、学生一人ひとりの授業、活動、生活面などを記入することでデータ化され、迅速な学生支援や学生一人ひとりの目標達成に役立っている。
- チューター制度
学生が入学して卒業するまでの4年間、1人の先生に、将来の夢や志、進路や修学に関することなどを相談できる制度である。学生にとって、“何でも相談相手”となる先生をチューター制度とし、学生は教員1人に対して学生約5人の割合で、手厚いサポートを受けることができる制度である。本学では、“チューター制度”や“クラス担任制”をどちらも導入し、各学科チューターと担任の先生、大学の各部署との連携のもと、学生一人ひとりの成長を全面的にサポートしている。
- 学生ファシリテーター（全学・学科SALC）
大学教育再生加速プログラムに採択された実績をベースに、学生ファシリテーターを養成し、修学支援をしている。学生ファシリテーターは下級生や他の学生からの学びに関する相談、質問に対応するため、全学SALC（Self-Access Learning Center）もしくは学科SALCに常駐し、これまでの学びの成果や経験を下級生や他の学生に伝えることで、自らの学びの成果を再構築している。下級生や他の学生にとっては、学生ファシリテーターへの相談が自律的な学びの機会となる。また、その過程でコミュニケーション能力の向上を図るよう計画している。
- TA（ティーチング・アシスタント）
大学院生が学部学生に対して助言や実験等の教育補助業務を行い、実験・実習・演習等をより効果的に行うため、学生の修学を支援している。教育を担う者としての自覚や意識の涵養と学生に対する教育方法等の在り方を学び、授業の実施方法や教材等の作成に関する教育などを実施し、きめ細やかな学部教育の実現を目指している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

・チューター、担任、指導教員等による対話型支援

教員が定期的に学生面談を実施。面談状況をポートフォリオシステムへ記録し、学生部長を中心に情報を共有して支援に活用。(進路相談および生活相談)

・教員と就職部による連携支援

各学科にキャリアアドバイザー(就職担当教員)を配置し、就職部とキャリアアドバイザーにて学生の活動状況について情報共有。(10日おき)

・各学科による支援

学科主導業界説明会開催、模擬面接練習実施、企業訪問、来訪企業との面談。

・就職部による支援

WEBの就職ガイダンスを年間60講座行った。インターンシップマナー講座、SPI受験会、就活の進め方講座など多様な行事を実施。

熊本県内の企業を中心に対面説明会を実施(150社程度)。

学内個別企業説明会の開催(年間申込社数300社程度)。

就職部内に常時3~5名のキャリアカウンセラー(就職相談員)を配置。

(1回約1時間、年間2,000件程度のカウンセリングを実施)

その他、カリキュラム編成において、学生に大学4年間と卒業後のキャリアデザインを模索させることを意識し、1年次よりPBL型のチーム学修を通じた学びを实践。2年次以降のキャリア教育ではより実践的内容の科目を設定し、大学と産業界の接続型教育科目群を構築している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・就職部による支援
令和3年度より就職課にソーシャルワーカーを配置し（毎月1回）、学生面談を実施している。
- ・担任制による学生支援
クラス全体に関する事柄や連絡と説明、保護者への連絡対応、緊急対応などを担任が行い、学生への心身や健康に関する支援も行っている。
- ・チューター制による学生支援
入学時から担任の他に一人の教員が約5人の学生をきめ細かくサポートする「チューター制度」を導入し、担任をはじめ、学生支援センター、学生厚生課、教務課、就職課、国際交流センターといった関係先との連携の下、学生の将来の夢や志、進路や修学に関することなどを把握しながら、心身や健康に関する支援も行っている。
- ・学生支援センターによる支援
メンタル的な問題で不安や心配を抱えている学生には、専属の相談員や臨床心理士・公認心理士または、社会福祉士（ソーシャルワーカー）が常時対応し、専門的な立場での支援を行っている。また、障害がある学生には、関連する教員と情報交換を行い、合理的配慮などの手助けも行っている。
- ・学生部長付専門員による支援
学生のトラブル（架空請求、金銭問題、交通事故、犯罪予防）などの心的ストレスを抱える学生の相談窓口として、専門員が相談に乗りトラブル解決の支援を行っている。
- ・看護師による支援
看護師2名により学生の心身の健康を支援している。すべてのキャンパスにおいて看護師を配置できるようにローテーションを組み学生を支援している。
また、全学生の健康診断による検査データを蓄積し、学生個々の健康状態を管理している。学生からは様々な相談もあり、常に学生に寄り添った支援をしている。
- ・UPI調査の活用
入学時に新入生全員を対象としたUPI調査（精神的健康度調査）を実施している。学生のメンタル的な問題が浮上した場合や予防する場合においてもデータを活用し、担任やチューターとの連携を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ

<https://www.sojo-u.ac.jp/about/information/announcement/>

(HOME>大学紹介>情報公開>教育研究活動等情報の公表)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F143310111317
学校名	崇城大学
設置者名	学校法人君が淵学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		459人	471人	—
内 訳	第Ⅰ区分	286人	294人	
	第Ⅱ区分	116人	111人	
	第Ⅲ区分	57人	66人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				491人
(備考) 授業料減免のみ学生数を含む				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	10人		
「警告」の区分に連続して該当	16人		
計	27人		
(備考) 異動見込含む			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	48人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	34人		
計	60人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。